

〔吾妻鏡 十七〕正治三年元建仁六月廿八日丙午藤澤四郎清親相具囚人資盛姨母女號板房額參上

〔吾妻鏡 十七〕建仁二年三月八日癸丑御所御鞠人數如例略中爰有自京都下向舞女號微妙盃酌之際

被召出之歌舞盡曲

〔徒然草 下〕此太秦殿に侍りける女房の名共一人はひざさち一人はことづちひとりにはうはら

一人はおとうしと付られけり

〔大江俊矩記〕文政三年六月廿八日壬子今夕八木東啓女米子諱為子二十歲初名爲客分引取内密婚

姻取結了

〔古文零聚 二〕大中臣氏女讓玉熊丸狀案

山しろのくに上かつらの庄はおほなかとみの氏女さうでんの所也略中

正中三ねん三月八日 おほなかとみの氏女判

〔禮記 曲禮〕男女非有行媒不相知名非受幣不交不親

〔觀念寺文書〕沽却進渡田畠地立券文事

合六段者在吉田鄉内三嶋神領勢與圓万名内頭部里廿二坪東寄○中略

右件田畠地者相互依有要用買人三島教圓御房代錢六貫文仁加本證文永代沽却進候處實也略中

元德貳年六月十八日 平氏女花押

〔古文零聚 一〕はりまの國やの、例名はさうでんのりやうにて候へどもちのうだの院御時と

うじへよせられ候てとしひさしくなり候へばいまはそせうをもとめ候べく候略中

けんぶ五年四月廿九日 ぶちわらのうぢの女判

〔觀念寺文書〕沽却伊與國觀念寺田畠地立券之事